

平成27年5月 福井城跡(山里口御門地点)発掘調査進捗報告

1 作業内容及び進捗状況

北地区・南地区で、裏込石・盛土除去、写真測量、石垣解体を一段分ずつ行い、解体を進めている。現在では一週間で南北とも一段ずつ解体している。また、5月9日(土)には現地説明会を行った。

2 主な遺構と出土遺物

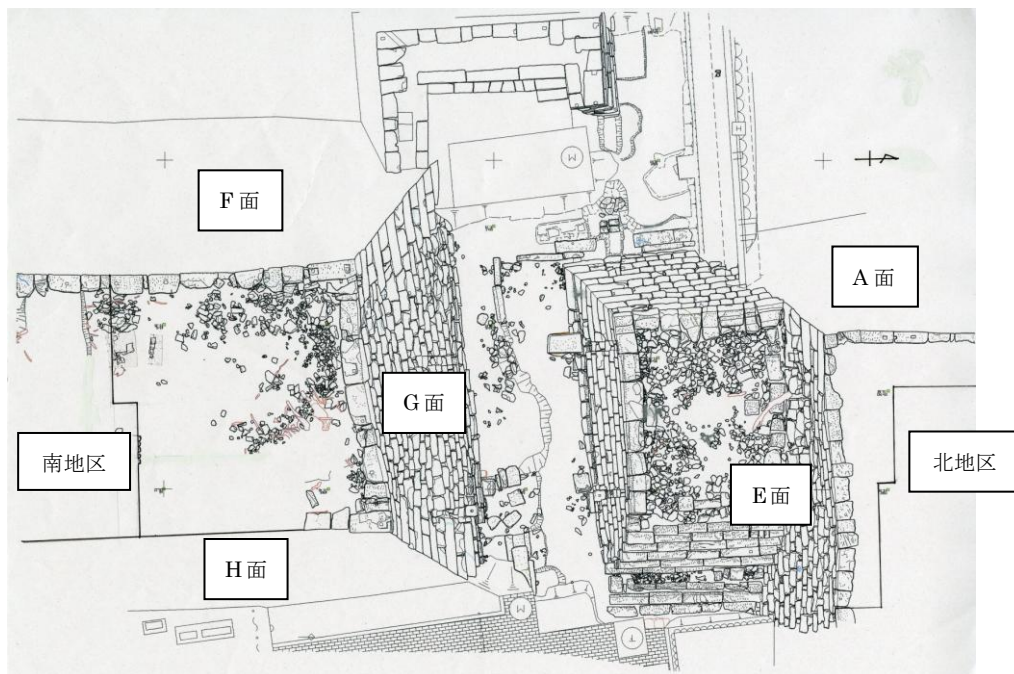
北地区は5～6段の石垣が解体済である。A面石垣では笏谷石の割石を、E面石垣では円礫を裏込に使っている。上層で裏込に入っていた石瓦片は、現在の掘削面では見られない。

南地区は7～8段の石垣が解体済である。上層では全ての石垣で笏谷石の割石を裏込に使っていたが、現在の掘削面ではF面石垣の裏込だけ円礫を使っている。上層で裏込に入っていた石瓦片は、現在の掘削面では見られない。裏込の奥行は、下に行くほど深くなり、現在の掘削面では石垣表面から4mほどの位置まで入っている。

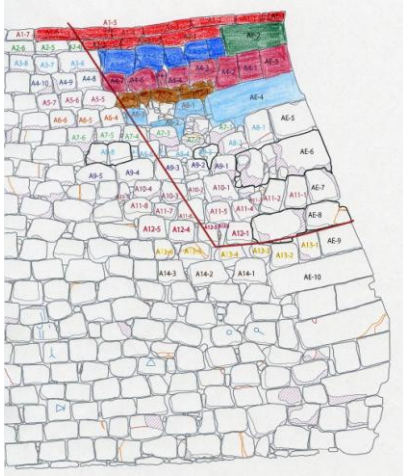
石垣石材に、原状では隣の石材とかみ合わない切欠きが複数見られ、この面までは積み直されたか、石材の入れ替えがなされたと考える。石材の下から現代の遺物(昭和40年代以降)が少数出土しており、近年の積み直しも考えられる。

遺物は、17世紀の瓦がごくわずかに出土する。

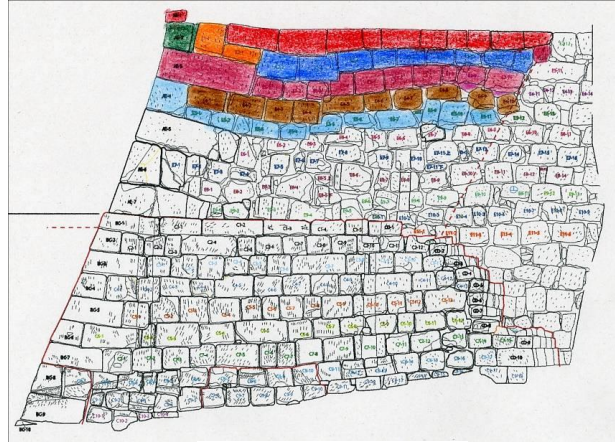
両地区とも、調査区法面に裏込石の層が露出しているため、原状のままでは作業が危険になっており、崩落防止の方法を検討中である。



調査区平面図



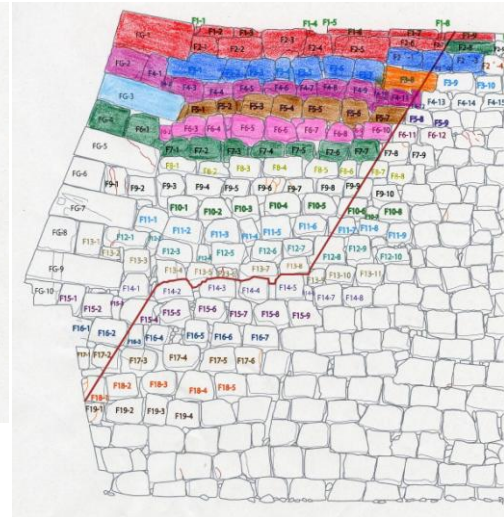
A 面石垣解体部分



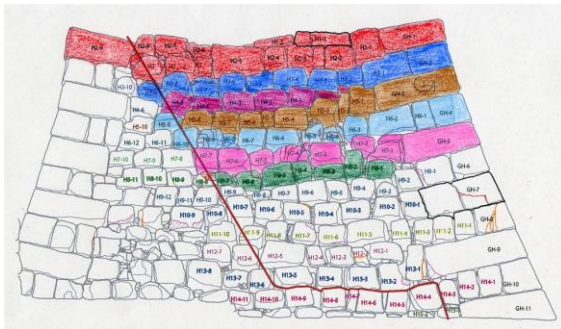
E 面石垣解体部分



G 面石垣解体部分



F 面石垣解体部分



H 面石垣解体部分



H 面石垣裏込



E 面石垣裏込